群教セ	K02 - 02
	平18.232集

発達が気になる幼児のなめらかな就学を目指した保護者へのサポート

――幼稚園・保育所等、学校、相談機関の連携を通して

《研究の概要》

本研究は、発達が気になる幼児のなめらか（円滑）な就学を目指し、子どもの育ちを支える保護者を幼稚園・保育所等と学校、相談機関が連携して、いつどのようにサポートしていけばよいか、子どもの就学に関する保護者のアンケートをもとに明らかにし、そのサポートと連携の在り方を各機関等に提言する。

Ⅰ　研究の構想

1　幼児のなめらかな就学の必要性（国の動向その1）

中央教育審議会による「子どもを取り巻く環境の変化を踏まえた今後の幼児教育の在り方（答申）」（平成17年１月28日）の中でその必要性が次のように示されている。

「遊びを通して学ぶ幼児期の教育活動から教科学習が中心の小学校以降の教育活動への円滑な移行を目指し、幼稚園等施設と小学校との連携を強化する。特に、子どもの発達や学びの連続性を確保する観点から、連携・接続を通じた幼児教育と小学校教育双方の質の向上を図る。具体的には、幼児教育における教育内容、指導方法等の改善等を通じて生きる力の基礎となる幼児教育の成果を小学校教育に効果的に取り入れる方策を実施する。」

2　特別支援教育の充実に向け、幼小、関係機関が連携して支援する必要性（国の動向その2）

特別支援教育の在り方に関する調査研究協力者会議による「今後の特別支援教育の在り方について（最終報告）」（平成15年３月28日）の中では、「教育、福祉、医療、労働等が一体となって乳幼児期から学校卒業まで障害のある子どもとその保護者等に相談や支援を行う体制の整備を進め、（以下略）。」と一貫した教育とそのための連携の必要性が示されている。

3　発達が気になる子どもの教育への期待

障害の重度・重複、多様化とともに発達障害への認識も広まり、一人一人の教育的ニーズに応じた教育の充実が求められている。国際社会では、障害者のインクルージョンが提案される中、我が国においては、障害者のノーマライゼーションの進展が図られるよう、平成19年度から特別支援教育が完全実施されることとなり、発達が気になる子どもとその保護者から特別支援教育の充実が期待されている。

4　幼児期から児童期の子どもの支えは保護者

この時期の子どもを支えている中心的な役割を果たしているのは保護者である。子どもの教育や療育の中心的役割を担い、子どもの成長にとって重要な存在である。すなわち、子どもの支えの要となるこの時期の保護者をどうサポートするかが子どもの健やかな成長につながるカギとなる。

5　なめらかな就学につなげるために

本研究は、国の動向を踏まえ、特別支援教育の充実に向けて発達が気になる幼児のなめらかな就学の実現を目指している。そのためには、子どもの支えである保護者を主な関係機関である幼稚園・保育所等と学校、相談機関がどう連携してサポートしていけばよいか明らかにしたい。

6　研究の内容から提言まで

就学する子どもの保護者がかかえている課題やニーズを把握するため、保護者を対象に子どもの就学に関するアンケートを実施。特に、就学前の子どもの保護者と就学後の保護者のかかえる課題やニーズの違いを比較検討できるように配慮して実施。アンケートから明らかとなった保護者のかかえる課題やニーズをもとに幼稚園・保育所等と学校、相談機関がそれぞれ、いつ、どんな役割で連携し合い、保護者をサポートするかを提言し、発達が気になる幼児のなめらかな就学につなげていきたいと考えた。

研究の構想を図１に示す。

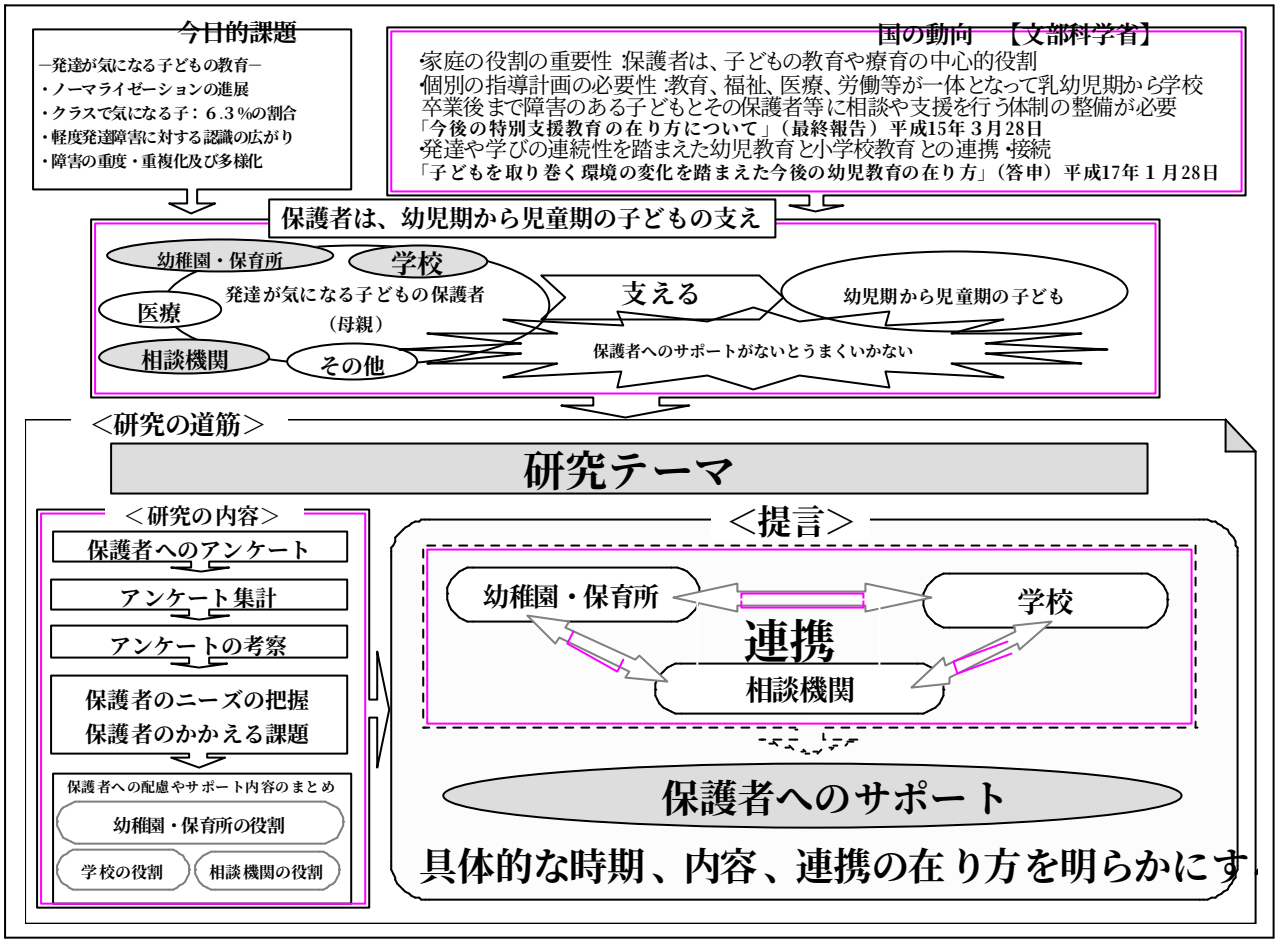


図１　研究の構想

Ⅱ　保護者のニーズを探る

保護者が子どもの就学のためにかかえる課題とニーズを把握するために「子どもの就学に関するアンケート」を実施した。資料１に示す。

１　子どもの就学に関する保護者の不安や悩みは何か

(1)　「保護者」について

90%以上が母親の回答であった。子どもとのかかわりが多い母親が主に回答していると考える。「保護者」を主に「母親」としてサポートを考える必要があるが、以下の表記は「保護者」とする。

また、就学前の子どもの保護者を「就学前の保護者」、就学後の子どもの保護者を「就学後の保護者」と以下に表記する。

(2)　「不安」や「悩み」について

就学前の保護者は、子どもの学校の様子がつかめないことから漠然とした「不安」をかかえる。就学後の保護者は、子どもの学校生活の様子を見たり聞いたりすることで、「不安」が「悩み」に変わると考える。

そこで、主に就学前の保護者がかかえているものを「不安」、就学後の保護者がかかえているものを「悩み」として表記する。

２　保護者へのアンケートから

(1)　アンケート集計について

アンケート集計の結果をより見やすくするために、拡大したグラフを資料２の図２～10に示す。

(2)　保護者の意見も参考に考察

アンケート集計結果と自由記述の保護者の主な意見も考慮して考察を進める。

３　保護者のかかえる課題とニーズは何か

以下に各項目ごとのアンケート集計結果と就学前・後の保護者の主な意見、その結果の考察を示す。特に考察では、集計結果についてだけでなく、保護者のかかえる課題やニーズも示す。

すなわち、各項目について次のような構成で示す。

①アンケート結果のグラフとその傾向
（グラフがある場合）

②就学前、後の保護者の主な意見
③集計結果と保護者の主な意見からの考察
④保護者のかかえる課題とニーズを考察

(1)　入学に関する不安や悩みでは

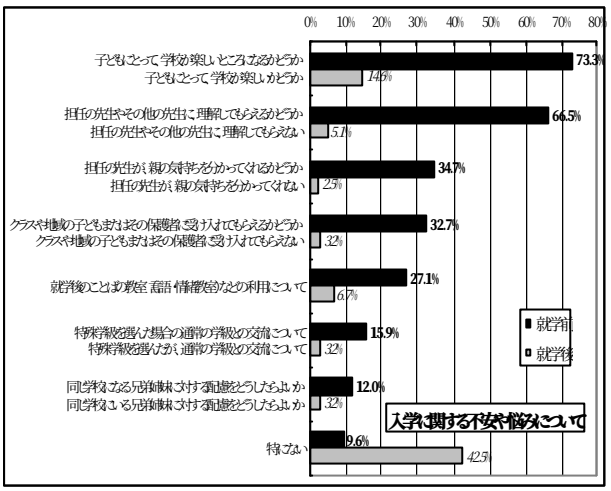


図２　入学に関する不安や悩み 複数選択］

・就学前の保護者の約60～70%は「学校が楽しいところになるかどうか」「担任やその他の先生に、理解してもらえるかどうか」について不安をもち、約30%の保護者は、「先生や周囲の人の理解がえられるかどうか」について不安をもっていることが分かった。「特殊学級を選んだ場合、通常の学級との交流ができるかどうか」や「同じ学校になる兄弟姉妹に対する配慮」について不安をもつ保護者は､10～20%であった。
・就学後では、１番多くて約15%の保護者が「学校が楽しい所であるかどうか」について悩みをもっている。「担任の先生やその他の先生に、理解してもら得るかどうか」「先生や周囲の人の理解がえられるか」「特殊学級を選んだ場合、通常の学級との交流ができるかどうか」「同じ学校になる兄弟姉妹に対する配慮」の悩みをもつ保護者は、いずれも約3%～5%程であった。

就学前の保護者の主な意見

・幼稚園は親が送迎しているため、子どもの様子など見ることができますが、小学校に入学すると見る機会が少なく、とても心配です。

就学後の保護者の主な意見

・問題が起こってから、対応を考えるのではなく、入学前に、幼稚園と小学校の先生、親で対応の仕方について情報交換して、どう指導したらよいか確認してほしいです。

就学前後共通の保護者の主な意見

・子どもたちが偏見の目で見たり、いじめたりしないように分かりやすく障害について説明してほしいです。
・先生によっては、全く障害児教育に関心が無く、誤解をもっている人がいます。また、保護者が子どもとのかかわり方や指導の方法について要望しても、なかなか受け入れてもらえません。職員の研修により、子どもの正しい理解と子どもに合った指導で学校生活を楽しくしてほしいです。

≪　考　察　≫

ア　集計結果と保護者の主な意見から

(ｱ)　就学前

・就学前は、子どもの学校生活について現実のものとなっていないので、不安を多くもち、子どもの就学後のことを深く考えて心配している。
・幼稚園・保育所等の担任、相談機関で保護者と接する際には就学への不安を受け止める配慮が必要である。
・入学する学校の取組や対応、子どもの学校生活の現状など楽しい学校生活につながるかの情報を事前に知っておきたいと望んでいる。

(ｲ)　就学後

・就学後は多くの保護者の不安が解消できるが、不安が解消されずに悩みとなってしまう場合がある。悩みが解消できるように学校の先生の発達や障害への理解と適切な対応を望んでいる。
・心配なく入学を迎えるためには、幼稚園・保育所と学校との間で、子どもの理解と対応についての引き継ぎがあり、入学式からスムーズに過ごせることを望んでいる。そのためには、保護者と学校の先生との事前の打合せも望んでいる。

(ｳ)　就学前後共通

・保護者は特に「子どもにとって学校が楽しいところであってほしい」「先生や友達に理解してほしい」と望んでいる。
・学校職員が障害についての研修を受け、より正しく共通理解して、障害のある子どもにかかわることを望んでいる。また、障害や特別支援学級（旧特殊学級）のことについて児童に理解してもらえる対応も望んでいる。

イ　保護者のかかえる課題

・就学について子どものことを深く考え、多くの

不安をもっている。

・子どもが就学すると不安はある程度解消されるが、先生や友達の理解がなく、子どもにとって学校が楽しいところではないことなどが悩みとなってしまう場合がある。

ウ　保護者のニーズ

・保護者の不安や悩みを受け止め、親身になって対応するなどの配慮が必要である。

・親の意見も生かし、子どもへの適切な対応ができるようにする。

・子どもの理解と対応について、幼稚園・保育所等から学校に資料を活用して引き継ぎを行う。

・入学式からスムーズに過ごせるため、学校の先生と保護者との事前の打合せを設定する。

・学校職員の共通した理解と適切なかかわりができるよう発達や障害に関する研修を充実する。

・学年・学級の児童が障害を理解ができるような取組を行う。

(2)　学校生活での不安や悩みでは

○学校生活について

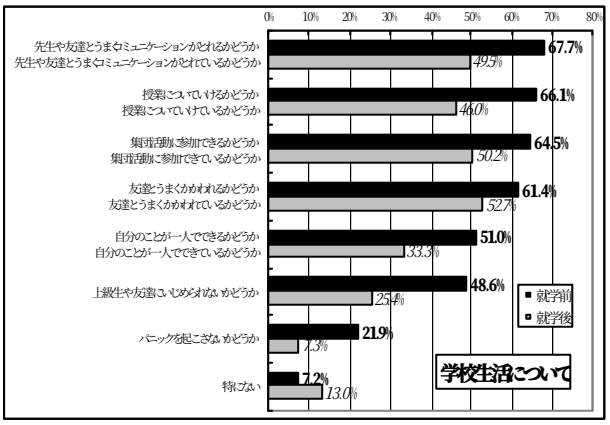


図３　学校生活について 複数選択］

・就学前の保護者の不安は、「コミュニケーション」「学習」「集団参加」「友達との関係」が60％を超え、「身辺のこと」「いじめの心配」が約半数、「パニックを起こすこと」が約20％であった。

・就学後の保護者の悩みは、「コミュニケーション」「友達との関係」「集団参加」「学習」の順に約50％、「身辺のこと」「いじめの心配」は20～30％であった。

就学前の保護者の主な意見

・初めての入学で、新しい先生や新しい友達のことなど学校生活について何かと不安でいっぱいです。

・入学に際して、落ち着きがない、自分勝手な行動をする、時間の区切りがうまくできないなど、園の先生から言われることがたくさんありすぎて､保護者自身がパニック状態です。

・幼稚園・保育所等と学校、相談機関が連携してほしいです。

就学後の保護者の主な意見

・小学校へ入学する時には、子どもが友達からいじめられないかなど不安は多くありました。幼稚園の先生や同じクラスの保護者に相談して心を落ち着かせ、入学前の不安な時期を過ごしていました。しかし、入学後は、あまり心配なく過ごしています。

≪　考　察　≫

ア　集計結果と保護者の主な意見から

(ｱ)　就学前

・保護者は、子どもの学校の様子が分かるまで主に「コミュニケーション」「友達との関係」「集団参加」「学習」などについて不安で、不安を解消できるように幼稚園・保育所等、学校、相談機関が連携して取り組んでほしいと望んでいる。

(ｲ)　就学後

・不安をもつ保護者は、子どもの学校生活を見たり聞いたりすることで不安が解消される場合があるが、主に「コミュニケーション」「友達との関係」「集団参加」「学習」については、約半数は具体的な悩みとなっている。

イ　保護者のかかえる課題

・就学前の保護者は、子どもの学校の様子が分かるまで「コミュニケーション」「友達との関係」「集団参加」「学習」などについて不安である。

・不安をもつ就学前の保護者は、子どもの学校生活を見たり聞いたりすることで不安が解消される場合がある。就学後の保護者の約半数は不安が具体的な悩みとなっている。

ウ　保護者のニーズ

・保護者の不安や悩みに配慮して接する。

・幼稚園・保育所等と学校、相談機関とが子どもの様子や対応について情報交換するなどして連携を図る。

○コミュニケーションについて

就学前の保護者の主な意見

- 言葉のことで子どもが深く傷つくことがあったら、どうしたらよいか不安です。
- 子どもの苦手な点「特に、話すこと」を理解して、ゆっくり話を聞き、伝えたいことを汲んでほしいです。
- 先生の指示を１回聞いただけではなかなか理解できないので、何回か繰り返し、ゆっくりと理解できるように話をしてほしいです。

就学後の保護者の主な意見

- １日の大半を親から離れて過ごす学校で、以前より子どもの活動範囲が広がります。そのため、言葉などコミュニケーション方法がより大切です。全員の先生方が子どもにかかわり、気にかけ、コミュニケーション能力を育てるサポートもしてほしいです。
- 話すことに対して、臆病にならずに楽しそうに学校生活を送っている姿を見て、言葉だけでなく、心のケアまでしてもらっている先生方に感謝しています。

≪　考　察　≫

ア　集計結果と保護者の主な意見から

(ｱ)　就学前

- 言語、コミュニケーションに課題がある子どもの保護者は、先生のゆっくりした話し方や聞き方で子どもが先生の話を理解でき、楽しい学校生活が送れるような支援を望んでいる。

(ｲ)　就学後

- 言語、コミュニケーションに課題がある子どもには、多くの先生が気にかけて、子ども同士でのかかわり方がもてるような支援や配慮を望んでいる。

イ　保護者のかかえる課題

- 言葉によるコミュニケーションがうまくいかないことで、友達との関係もうまくいかないことを不安や悩みとしている。
- 子どもが友達や先生とうまくかかわれずに、楽しい学校生活を過ごすことができないのではないかと不安や悩みをもっている。

ウ　保護者のニーズ

- コミュニケーションが苦手な子どもには、多くの先生が気にかけ、ゆっくりと話をしたり聞いたりして、子どもが安心して生活が送れるよう支援する。
- 学校の先生や学級の友達も、気になる子どもの特性について正しく理解できるよう、特別支援教育コーディネーターや専門家等の意見を聞く。
- 子どもに分かりやすくルールを説明し、子どもに合った注意の仕方を工夫するなどの指導法の改善や、友達とうまくかかわれるようなグループ編成による活動や支援を行う。
- 保護者と連携して、学級や学年の児童、保護者に発達や障害について理解してもらえるよう話をしたり、たより等を通して伝えたりする。
- 子ども同士のかかわりの機会ができるだけ多くもてるよう活動を設定する。

○学習について

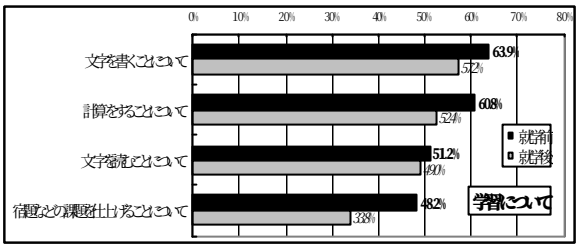


図４　学習について 複数選択］

- 学習のどの項目も就学後の方が就学前より約10％程悩みが多くなっている。
- 「文字を書くことについて」「計算をすることについて」「文字を読むことについて」の順に悩みが多く、特に就学後は約40％程の保護者が悩みとしてもっている。

就学前の保護者の主な意見

- 学校に入学すると、遊ぶことよりも勉強することが主体となってくるので、「ついていけるか」「楽しんで取り組めるか」など不安はつきません。
- 国語・算数の勉強が特に不安です。

就学後の保護者の主な意見

- 一人一人に合った授業を心がけてほしいです。また、苦手科目の克服方法等の助言をもらいたいです。
- 授業中、子どもについて支援する補助の先生がほしいです。また、国語・算数などついていけない勉強を個別に指導したり、放課後に補習をしたりしてほしいです。
- 個別授業が、週２回あり、算数が少し理解できるようになりました。
- 楽しく学校生活が送れるように、先生が子ど

もの興味のあるものを学習の中に取り入れるなどの配慮をしてもらっています。
・担任の先生が、時間割を詳しく書いた学習予定表を、毎週クラス全員に配ってくれます。「教科書のここをします」に合わせて予習・復習ができ、学習内容もなんとか理解できています。

≪ 考 察 ≫

ア 集計結果と保護者の主な意見から

(ｱ) 就学前

・保護者は、子どもの学習、特に国語、算数における「読み・書き・計算」への関心があり、不安をもちやすい。

(ｲ) 就学後

・「読み・書き・計算」については、就学前の不安が就学後に解消されることは少なく、悩みとなる傾向にある。
・保護者は、自分の子どもに合った支援や情報、個別指導の必要性を強く感じている。

イ 保護者のかかえる課題

・就学前の保護者は、国語・算数の授業に子どもがついていけないのではないかと不安に思っている。就学後、実際の子どもの学習の様子を知り、不安が悩みとなる傾向にある。

ウ 保護者のニーズ

・学校では、保護者の意見も取り入れ、子どもに合った学習や個別指導を行えるよう努める。
（個別の指導計画の作成と活用）
・学校の担任は、授業内容の理解の確認や授業についていくための個別指導の場所や時間を確保するように努める。
・家庭学習に役立つように、学校から学習予定を知らせる。
・学習が気になる子どもについて個別に指導できる支援者を地域からの人材から募るなどして確保する。

○集団活動への参加について

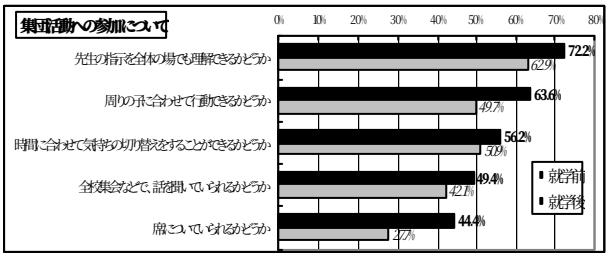


図５ 集団活動への参加について 複数選択］

・集団活動への参加の悩みは「先生の指示が理解できるか」「友達と一緒に行動できるか」「時間に合わせて気持ちの切り替えができるか」「話を聞いていられるか」の順に約30～50%の保護者がもっている。特に、就学後になると約10%多く悩みをもつ結果となってしまう。「席についていられるか」の不安や悩みは約20%。

就学前後共通の保護者の主な意見

・先生の話を全部聞き取れるわけではないので、子どもに分かる指示をし、分かったのか確認してほしいです。
・集団生活の決まり事がなかなか理解できない子どもの現状を心配しています。補助の先生を付けてもらいたいです。
・子どもがパニックを起こす前に気持ちの切り替えができるようにしてほしいです。
・担任の先生が、席を前列にし、頻繁に言葉かけをしてくれています。また、担任以外の先生もかかわっているので安心です。

≪ 考 察 ≫

ア 集計結果と保護者の主な意見から

＜就学前後共通＞

・多くの保護者が子どもの集団活動への参加に不安や悩みをもっている。
・事前に集団参加が苦手な子どもがいることを先生に理解してもらい、子どもが集団の中で活動できるよう注意を向けさせてゆっくりと繰り返して話すなどの話し方や簡単で分かりやすい指示などの支援や支援者を望んでいる。
・パニックを起こす子どもについては、事前に起こさないような配慮や起こしたときの適切な対応を望んでいる。

イ 保護者のかかえる課題

・多くの保護者が子どもの集団活動への参加に不安や悩みをもっている。

ウ 保護者のニーズ

・担任は、集団参加が苦手な子どもがいることに配慮し、子どもが集団の中で活動できるよう注意を向けさせてゆっくりと繰り返しての話し方や簡単で分かりやすい指示を出すなどの支援をする。
・子どもがパニックを起こす場合の事前防止や起こしたときの配慮について幼稚園・保育所等や保護者から情報を得て対応できるようにする。

○友達との関係について

就学前の保護者の主な意見

- **当たり前のルールが分からないなど、できないことが多いので、不安です。友達とうまく遊べるように支援してもらいたいです。**
- **友達に関心はありますが、自分から話しかけるのが苦手なので、同じ興味のある子や近所の子などと話しやすいようにしてほしいです。**

就学後の保護者の主な意見

- **特殊学級と協力学級との交流が週１～２回です。もう少し交流を増し、同年代の子どもたちとのかかわりがもてるようにしてほしいです。**
- **障害のある子どもへの理解を深めるような指導をしてほしいです。**
- **子どもの障害を学級や学年みんなに話して、障害について子どもたちの理解を得ることができました。**

≪　考　察　≫

ア　集計結果と保護者の主な意見から

(ｱ)　就学前

- **保護者は、子どもが友だちとうまくかかわって学校生活を過ごすことを希望している。**
- **ルールを守り、友だちとうまく話したり遊んだりできるようなグループ編成や活動、支援を望んでいる。**

(ｲ)　就学後

- **友達と楽しくかかわれるために、保護者と連携して、学級や学年の児童に障害等について理解してもらえるような話や配慮を望んでいる。**
- **保護者は、同年齢の子ども同士のかかわりからの学びを望んでいる。**

イ　保護者のかかえる課題

- **子どもが友達とうまくかかわれずに、楽しい学校生活を過ごすことができないのではないかと不安や悩みをもっている。**

ウ　保護者のニーズ

- **友達とのかかわりが苦手な子どもが友達とうまくかかわれるよう子どもや友達にかかわり方のモデルを示したり、ゲームを通してかかわり方を学習する活動を設定したりする。**
- **友達と楽しくかかわれるために、保護者と連携して、学級や学年の児童に理解してもらえるような話をする。**
- **同年齢の子ども同士の交流を設定する。**

(3)　子どもの入学前に保護者が必要なことは何か

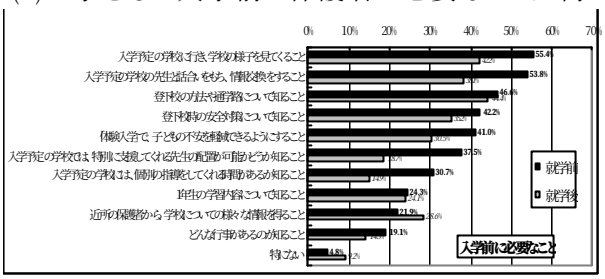


図６　入学前に必要なこと 複数選択］

- **入学後に「入学前に必要だった」と思う項目のうち、約30%以上の保護者が示した項目は、「登下校の方法や通学路について知る」「入学予定の学校を見学して様子を知る」「入学予定の先生と話合いをもち、情報交換する」「登下校の安全対策について知る」「体験入学で子どもの不安を軽減する」であった。約15～30%未満の保護者が示した項目は、順に「近所の人から学校についての様々な情報を知る」「１年の学習内容を知る」「個の指導のための先生の配置や時間を知る」「学校の行事を知る」であった。**

就学前後共通の保護者の主な意見

- **入学前に、学校見学があれば、より情報を聞くことができるので、学校側に見学日を設定して実施してほしいです。**
- **体験入学が何度かでき、学校に慣れるようにしてほしいです。また、先生に子どものことについて事前に情報交換して、パニックが起こらないようにしてほしいです。**
- **現在、事件・事故が多く、何が起こるか分からないので、登下校は十分に注意と警戒をお願いします。また、必要に応じて先生が途中の通学路まで指導してほしいです。**
- **小学校については、分からないことばかりです。悩みを相談したいというのももちろんですが、どこの誰に話を聞いたらいいかが分からないので、そういう情報を教えてほしいです。**

就学後の保護者の主な意見

- **入学する学校の見学の機会が無かったので、学校公開などを利用して、普段の様子を見学できるようにしてほしいです。**
- **早くから特殊学級や通常学級、養護学校を見学したり、保護者会などに参加したりできるようにしてほしかったです。**

・説明会や体験入学では、「もし、うちの子がこの学校に入ったら」どういう授業を受けるのか分かりずらかったです。
・入学前に子どもを学校に連れて行って、先生と顔を合わせておいて、現状を見てもらった方がよいと思います。その上で必要なサポートの要望を事前にお願いをしておくとスムーズだと思います。
・親の会での勉強会や先生からの資料により親もとても勉強になったり、慰められたりしています。

≪ 考 察 ≫

ア　集計結果と保護者の主な意見から

＜就学前後共通＞

・子どもの入学前に保護者が必要なことは、「子どもが安心して学校に行き、楽く過ごせること」である。そのためには、次のことが必要である。

◇登下校の方法や通学路の安全対策について知る。

◇入学予定の学校だけでなく、いろいろな学校を見学してその学校の様子を知る。

◇入学予定の学校の先生と子どもへの指導について話合いをもち、情報交換する。

◇子どもの体験入学の様子を見て、先生との情報交換や話合いの参考にする。

◇学校の様子を知っている保護者から学校の様々な情報を得る。

◇学校の行事や学習内容を知る。

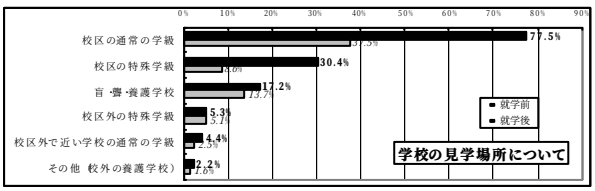
◇学校の特別支援教育の取組や指導体制（個別指導のための先生の配置や時間など）を知る。

イ　保護者がかかえる課題とニーズ

・「子どもが安心して学校に行き、楽しく過ごせる」ための情報が得られないので、体験入学を設定したり、入学説明会で特別支援教育の取組について説明したりする。

※子どもの入学前に保護者が必要なことについてまとめたチェックリストを資料４に示す。

(4)　学校の見学や場所について必要なことは何か



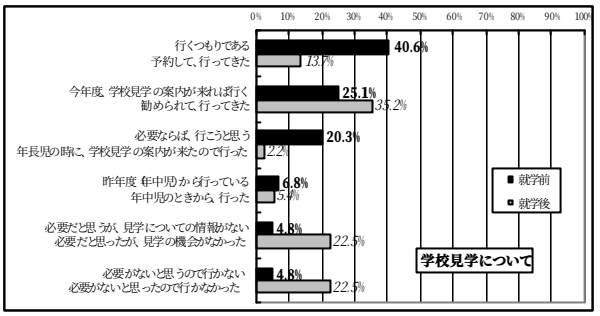


図７　学校の見学や場所について 複数選択］

・就学前に学校見学を希望している保護者は約40%いるのに対して、見学できたのは13.7%である。

・就学前は、「勧められれば見学する」「必要ならば見学する」と回答した保護者は約20～25%。

・勧められて見学した保護者は35.2%である。年長児に見学案内が来たので見学した保護者は、わずかに2.2%である。

・見学の機会が無かったので見学しなかった保護者は22.5%である。

・就学前の保護者の見学希望場所は、校区の通常学級が77.5%と圧倒的に多い。次いで、校区の特殊学級が30.4%、盲・聾・養護学校が17.2%。ところが、見学した場所は特殊学級と盲・聾・養護学校が逆転している。

就学前の保護者の主な意見

・子どもの様子に応じて、集団活動や個別指導を選択できるシステムを望みます。

就学後の保護者の主な意見

・入学に関することは、親自身が積極的に働きかけ、学校見学する必要があると思いました。
・偏見をもたずに、特殊学級や通常学級、養護学校を何度か見学し、体験入学することが必要であると、入学して感じました。
・子どもに合った学校を選ぶのはとても難しいことです。悩んでいる時は、いろいろな学校に足を運び、実際に話を聞くのが大切だと思います。
・就学前までの流れがはっきりせず、子どもが安心して楽しく学校生活が送れるか不安がありました。
・入学する学校の校舎内、教室等、入学前に子どもと一緒に見学したかったです。
・各学校によって支援体制が違い驚きました。

≪　考　察　≫

ア　集計結果と保護者の主な意見から

(ｱ)　就学前

・保護者の多くは、子どもが校区の通常の学級へ入学することを望んでいる。次いで、校区の特殊学級、盲・聾・養護学校となるが、子どもが安心して学校生活できるために見学や体験を望んでいる。

(ｲ)　就学後

・子どもが安心して楽しく学校生活が過ごせるように、保護者が偏見をもたずに早い時期から進んで通常の学級、特殊学級、盲・聾・養護学校の見学や体験が必要である。

・学校見学の視点は、子どもが早く慣れるかどうか、子どもの様子に合うような指導または合わせてもらえるかを知ることである。

・通常の学級や特殊学級の見学を望んでも、見学の日程等の情報がなく、見学できないことがある。

イ　保護者のかかえる課題とニーズ

・早い時期から通常学級、特別支援学級（旧特殊学級）、特別支援学校（旧盲・聾・養護学校）の見学や体験を希望しても情報が得られないので、情報を公開し提供する。

・学校見学や体験入学で子どもが早く慣れるかどうか、子どもの実態に合った指導が行われるか分からないので、保護者との事前の打合せを行い、情報交換する。

(5)　保護者の相談相手の状況から

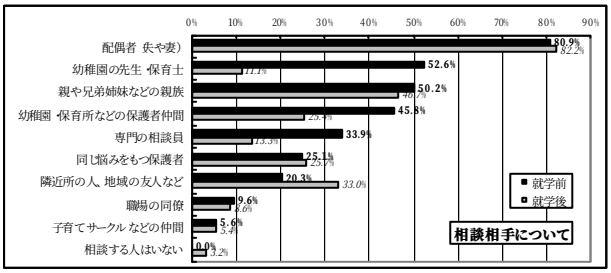


図８　相談相手について 複数選択］

・相談相手については、就学前後ともに、約80%が「配偶者（夫や妻）」と回答している。

・就学前の相談相手は、約半数が「幼稚園・保育所の先生や保護者仲間」「親族」である。

・就学後では、順に「親族」が46.7%、「友人」が33%、「同じ悩みをもつ仲間」が25.7%、「保護者仲間」が25.4%と回答している。

・就学前の保護者の約30%は、相談相手を「専門の相談員」と回答している。

・保護者の約10%は、「同じ悩みをもつ人が近くにいない」「学校の情報を気軽に聞く人がいない」と回答している。

就学前の保護者の主な意見

・入学前や困ったことがあったとき、相談できる先生がいたら助かります。

就学前後共通の保護者の主な意見

・悩みを相談したいのですが、どこの誰に相談できるのか教えてほしいです。また、親身になって相談にのってくれる人がほしいです。

≪　考　察　≫

ア　集計結果と保護者の主な意見から

(ｱ)　就学前

・幼稚園・保育所等と違い、学校の先生に相談できる機会は少ないと考えている保護者が多い。

(ｲ)　就学後

・就学後、保護者の相談場所が十分でなく、相談相手がいない。

イ　保護者のかかえる課題とニーズ

・幼稚園・保育所等と違い、学校の先生に会う機会は少ないので、必要に応じて相談できる機会を作ったり、気軽に相談できる関係作りに心がけたりする。

・就学後、保護者の相談場所が十分でなく、相談相手がいないので、相談しやすい保護者仲間や相談できる場所を紹介する。

(6)　相談の効果

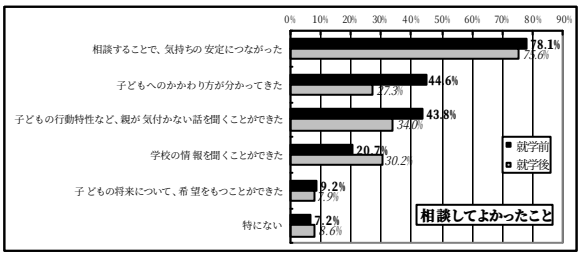


図９　相談してよかったこと 複数選択］

・就学前も後も、70%を超える保護者が「相談することで、気持ちの安定につながった」と回答している。

・就学前では、「子どもへのかかわり方が分かってきた」「子どもの行動特性など、親が気付かない話を聞くことができた。」が40%を超え、就学後では、「子どもの行動特性など、親が気付かない話を聞くことができた。」「学校の情報を聞くことができた」「子どもへのかかわり

方が分かってきた」が約30%になっている。

就学前の保護者の主な意見

- 同じ悩みをもつ保護者に相談できるだけでもだいぶ違うので、相談できる施設や機会はとても助かります。
- 近所に同学年の保護者仲間が集まる機会があれば助かります。

就学後の保護者の主な意見

- 入学前に、近所の子どもたち同士の交流の機会があれば、入学前の子どもの不安が少なくなり、助かります。
- 学校の情報が聞ける保護者の縦のつながりがあれば助かります。
- 相談機関に通い始めて、同じような悩みをもつ保護者と交流がもてました。

≪ 考 察 ≫

ア　集計結果と保護者の主な意見から

(ｱ)　就学前後共通

- 多くの保護者は、相談することで気持ちの安定につながっている。
- 相談することで「子どものかかわり方が分かる」「知らなかった子どもの行動特性を知ることができた」「学校の情報を聞くことができた」など、子どもの理解と対応につながる。保護者は、子どもの理解とかかわり方、育て方に自信がもてないなど子どもとの良好な親子関係を望んでいる。

イ　保護者のかかえる課題とニーズ

- 保護者は、子どもの理解とかかわり方、育て方に不安をもっているので、相談機関への相談により、気持ちの安定や良好な親子関係ができるよう助言する。

(7)　保護者が知りたいサポートは提供できているか

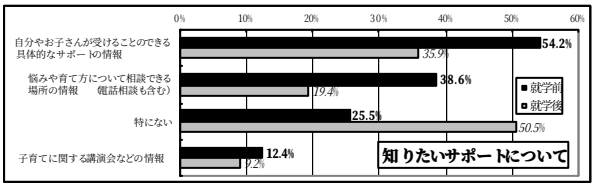


図10　知りたいサポート 複数選択］

- 就学前の保護者の半数以上、就学後の１／３以上が、「自分やお子さんが受けることのできる具体的なサポートの情報」を望んでいる。続いて約20～30%が「悩みや育て方について相談できる場所の情報」、約10%が「子育てに関する情報」である。
- 就学後は半数以上が「特にない」と回答している。

就学前の保護者の主な意見

- 発達障害の子どもに対しての具体的な支援を望んでいます。
- 入学前に行うべき手順や準備など相談できる場所や資料を提供いただけると戸惑わずに対応でき助かります。
- 相談機関で「入学までの見通し」と「入学後どうしたらよいか」などを相談したいです。

就学後の保護者の主な意見

- 具体的に受けられるサポートなどほとんど知らないので教えてほしいです
- 入学前は無料で療育や相談ができる場所が多くてよかったのですが、小学生になったら利用できるところが有料で、気軽に利用できなくなってしまいました。

≪ 考 察 ≫

ア　集計結果と保護者の主な意見から

(ｱ)　就学前

- 入学までの手順や準備などについて分かる資料や相談相手・場所を望んでいる。

(ｲ)　就学後

- 入学後の相談機関についての情報提供が必要である。

(ｳ)　就学前後共通

- 就学前は子育てと就学への不安、就学後は学校での子どもの様子を悩みとしている。保護者は子どもへの具体的なサポート、悩みや子育てについて相談できる機関の情報を求めている。

イ　保護者のかかえる課題とニーズ

- 相談機関の情報や子どもへの具体的なサポートの情報が分からないので、提供する。
- 入学までの手順や準備などについての資料を提供する。

(8)　学校に望む支援、学校からの望ましい支援

「学校に望む支援」「学校からの望ましい支援」についての自由記述による保護者の意見をまとめ、資料３に示す。

Ⅲ　明らかになった各機関等からの保護者へのサポートに関する提言

保護者のかかえる課題やニーズに応じ、どこの機関が、保護者にどんな配慮やサポートをしたらよいかを以下にまとめ、提言を示す。

１　幼稚園・保育所等、学校、相談機関からの共通したサポート（いつでもどこでも大切なサポート）

－気軽に話せる関係作りと傾聴姿勢－

□保護者が不安や悩みを気軽に話せる関係作りに心がけましょう。

□多くの不安や悩みをかかえている保護者に配慮して、不安を駆り立てたり、悩みを増やしたりするような言動は控え、保護者の話に耳を傾けるように接しましょう。

－保護者の仲間作り支援－

□身近で相談しやすい保護者の仲間作りを支援しましょう。

※各機関等と連携する際は、保護者の了解を得て行いましょう。

以下、保護者の了解が必要な項目の最後に※印をつけて示す。

２　幼稚園・保育所等からのサポート

－入学に向けた引き継ぎ－

□２月頃、幼児の入学までに保護者が必要なことの情報（資料４）を伝え、必要に応じて入学予定の学校と連絡・調整を図りましょう。※

□担任は、幼児が入学式から学校生活に慣れるよう、幼児の理解と対応が分かる資料をもとに相談機関の担当者や必要に応じて保護者と連携して学校との引き継ぎを行いましょう。※

－相談機関につなげる－

□保護者が幼児の状態をどこまで理解しているかによって、幼児とのかかわり方に悩んでいる場合は、保護者の要望により、相談機関を紹介しましょう。※

－保護者同士の橋渡し－

□子どもが就学している保護者から学校の情報が聞け、就学への安心につながるよう、その保護者の了解を得て保護者同士の橋渡しをしましょう。

３　学校からのサポート

≪学校の取組として≫

－保護者に学校見学等の情報提供－

□就学前の幼児やその保護者の不安が少しでも解消するよう、学校の見学や体験入学、就学相談などの体制を整え、その情報を公開しましょう。

－保護者に特別支援教育の取組情報の提供－

□特別支援教育コーディネーターが中心となり入学説明会などで特別支援教育の取組について話しましょう。

－保護者にサポートの情報提供－

□就学前の幼児の困った姿に悩んでいる保護者の相談を受け、「児童に応じた支援を学校全体で取り組んでいる」ことや、児童もが受けることのできる具体的なサポートを伝えましょう。

－幼・保等、相談機関、保護者との引き継ぎ－

□幼稚園・保育所等、相談機関との引き継ぎ内容を学校の指導の基礎資料（個別の教育支援計画）に活かしましょう。※

□入学式や学校の行事、授業等での予想される子どもの様子とそれに対する適切な対応について、関係する職員と保護者の事前の打合せを行い、適切な対応ができるよう情報を共有する体制をつくりましょう。※

－特別支援教育の充実－

□どの児童も学校が楽しいところになるよう、発達や障害についての学校職員の共通理解と児童・保護者への啓発を図りましょう。

□言語・コミュニケーション、学習や行動等が気になる児童一人一人の様子について、必要に応じて特別支援教育コーディネーターや専門家から意見を聞いて、校内支援会議で適切な指導方法、指導形態（ティームティーチング、補充学習等）について検討し、実践できるようにしましょう。また、その取組や成果を保護者に伝えましょう。

□次のような実践により効果を上げている取組もあるので、児童と保護者の了解のもと学校の実情に応じて実践してみましょう。

①ソーシャルスキルトレーニングやグループエンカウンターなど集団参加の活動を休業中や放課後実施する。

②個別の支援者として学生や保護者のボランティアを募り、支援する。

≪担任の取組として≫

－保護者への情報提供－

□一人一人を大切にしていく学級経営の方針や取組を児童・保護者に伝えましょう。

□「コミュニケーション」「友達との関係」「集団参加」「学習」などの学校生活の児童の様子を連絡ノート等で保護者に伝えましょう。

□国語、算数が苦手な児童については、学習の予定、児童に合った学習方法を保護者に知らせ、必要に応じて保護者と協力して学習の定着を図りましょう。

□児童同士が楽しくかかわり方を学べるような遊びや活動を設定し、その様子や児童の変容、感想等をたよりにして保護者に知らせましょう。

－児童への指導－

□友達とのかかわりが苦手な児童のために、本人や友達にかかわり方のモデルを示したり、理解のある友達をグループにしたりするなどして、かかわり方の理解を進めていきましょう。

□児童の障害理解を進める方法として、障害を疑似体験して相手の気持ちになって理解できるようにしたり、具体的な接し方や援助について示したりしましょう。また、児童らのよい取組をたよりなどで保護者に伝えましょう。

４　相談機関からのサポート

－子どもの理解とかかわり方支援－

□保護者の不安や悩みを解消し、子どもへのかかわり方や理解の仕方など実際の課題をどうしていけばよいか助言し、自信につながるよう励ましていきましょう。

－幼･保等、学校と基礎資料の情報交換－

□「コミュニケーション」「友達との関係」「集団参加」「学習」などの幼児の特性の理解と対応についての資料（☆すこやかサポートファイル等）を活用して幼稚園・保育所等、入学予定の学校と情報交換して連携を図りましょう。※

－保護者への情報提供－

□受けることのできる具体的なサポートの情報を提供しましょう。

□保護者からの要望により、地域または全国に広がる親の会など保護者仲間の情報を提供しましょう。

－就学後も相談をつなげる－

□幼児だけを対象としている相談機関は、保護者の要望に応じて児童を対象とした相談機関につなげることが役に立つでしょう。※

発達が気になる幼児が円滑に学校の教育活動に取り組めることが本研究の目的である。そのために、就学１年前から就学した２ヶ月間に焦点を当てて、主に関係する幼稚園・保育所等と学校、相談機関が連携して、子どもを支える保護者をサポートし合えるよう、その内容と時期をリーフレット（資料５）にまとめ、提言として示す。これをもとに、各機関等の実情に合わせて、取組内容を吟味し、実践・評価・改善することを望むものである。

Ⅳ　今後の研究では

本研究の提言は、今後、各機関等の実践事例の中で検証し、課題等を明らかにしていきたい。また、各機関の取組や工夫も参考に加え、なめらかな就学への実践につながる具体的な手だてをさらに追究することを次年度の研究としていきたい。

Web検索キーワード
【子どもの発達　就学　保護者　サポート　連携】

＜参考文献＞

・会津　力　著　『発達障害児の心理学と育児・保育～就学前の発達が気になる子どもとその親へのサポート～』　ブレーン出版（2004）
・粂　幸男　著　『子どもたちのすこやかな育ちを支える幼稚園・保育所と小学校の連携の在り方』　平成15・16年度　愛知県幼児教育研究協議会報告（2005）
・久保田　純　『医療・福祉・教育が連携した相談支援体制を作る試み』　発達障害研究第25巻第２号　(2003)
・小林　倫代　久保山　茂樹　『障害児の早期からの教育相談における保護者対応』
国立特殊教育総合研究所研究紀要第27巻(2000)

＜共同研究者＞

グループリーダー　饗庭　敏彦
指導主事　※　飯塚　幹雄
（※研究チーフ）　上原　清司
向井　道子
長期研修員　星　小月